

IS 天舞う黒き翼 短  
編版

ヒロアキ 1 4 1

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

これは「I S 天舞う黒き翼」の短編仕様です

ほとんど連載仕様と変わりませんが、最後のあたりが連載仕様と異なります

# 目次

I S 天舞う黒き翼 短編版 | 1



# IS 天舞う黒き翼 短編版

1人の天才科学者―篠ノ之 束―が1つの発明をした

IS ―インフィニット・ストラトス―と呼ばれるマルチフォームパワードスーツである

しかし、この発明には「女性にしか扱う事が出来ない」という致命的な弱点があったそれが世間一般の常識であった

しかしその常識は覆されることになった

唯一の男性のIS適合者―織斑 一夏―の出現により世界は大きな変革を強いられるようになる

だが、世界は知らない

彼の前に既に男性のIS適合者が存在していたことに・・・

フランス某所

其処は表向きには軍に納品される武器弾薬の製造工場であった

しかし裏の顔は亡国機業の拠点の1つであった

その拠点に1機のISが飛んでいった

そのI Sは全身装甲で・・・闇を思わせるほど黒かった

そして操縦しているのは齢わずか14の少年であつた

「目標地点に到達・・・これより作戦を開始する」

『マスター、センサーに感あり、敵I S接近、形式照合の結果ラファール・リヴアイヴの全身装甲タイプと判明、数30、生体スキャンの結果、すべて無人機と判明』

「構わないREI、全てを破壊するのみ」

少年はREIと会話しつつI Sの速度を上げた

「行くぞ！ブラック・シャドー！この世の悪を・・・駆逐する！」

そのころ亡国機業の拠点では接近するI Sを迎撃すべく、無人操縦の全身装甲I S部隊が出撃していった

「出てきたか！人形ども！」

ズガガガッ

ブラック・シャドーはラファール・リヴアイヴの部隊に向けて、ヘヴィ・アサルトライフルを撃った

回避しきれず次々と被弾し爆発するラファール・リヴアイヴ

それでも回避に成功した少数のラファール・リヴアイヴはブラック・シャドーにむかつて手持ちのマシガンやアサルトライフルで反撃を試みようとした

しかし

「遅いぞ、人形！」

と即座に反撃に出たブラック・シャドーに撃墜されていた

『クロスレンジに敵I S接近、近接戦闘を推奨します』

「格闘戦を挑むつもりか？ 舐められたものだ！」

近接装備で接近してきたラファール・リヴァイヴに太刀を量子変換で呼び出し斬りつけた

ズガン ドォー——ン

咄嗟の事に反応できずラファール・リヴァイヴは真つ二つに両断された

『敵I S部隊沈黙、この周辺に機影は確認できません』

無人I Sを壊滅させ、REIからの報告を聞き少年は

「任務を続行する」

とだけ言い、REIは

『了解』

と返答した

そのまま飛び続けやがて目標の建築物を視認で確認した

『攻撃目標確認、特殊兵装有効射程内です』

「こちらでも確認している、グランブラスター展開!」

少年は重力の砲身をブラック・シャドーの腹部と肩部に展開した

『グランブラスター臨界まで、3・・・2・・・1・・・』

「グランブラスター発射!」

眩しい光と共に轟音が轟き、亡国機業の拠点があった場所には、巨大なキノコ雲が立ち上っていた

「任務完了!これよりきか・・・」

離脱しようとしたところ、けたたましいアラートと共にREIが警告を発した

『警告!敵I S 3機急速接近!3機とも攻撃態勢に入っています!』

「何だ?!REI、何で見つからなかったんだ?」

『あの機体には、I Sのハイパーセンサーに捕捉されない強力なステルス機能を、有している模様』

「チツ・・・この空域から離脱するにも、こいつらを破壊してからじゃないといけない、つて訳か・・・REI 奴等を破壊する」

そう言つて少年はブラック・シャドーを敵I Sに突撃していった

敵I Sは各々の死角をカバーするようにフォーメーションを組んだ

ブラック・シャドーは敵I Sの1機に向けてヘヴィ・アサルトライフルで攻撃した

